

2023年11月期 第2四半期 決算説明会



イーサポートリンク株式会社

2023年7月28日



INDEX

- 2023年11月期第2四半期 連結決算概要
- 2023年11月期 上期振り返りと通期連結業績見通し
- 持続的な成長に向けた事業の方向性

2023年11月期第2四半期 連結決算概要

E-supportlink, Ltd.

売上高の減少は下げ止まり、売上獲得の活動に注力
保守費等のコスト負担の増加により減益

	実績	前年同期比
売上高	2,179百万円	△65百万円
営業利益	△17百万円	△105百万円
経常利益	△11百万円	△110百万円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△11百万円	△53百万円

コスト増分の価格転嫁と顧客獲得の遅れによる減益

1 コスト増

システム運用・保守関連コストの増加

開発・保守等システム関連の他、社内外インフラ整備費負担増加

2 売上減少

新規売上の伸びが減収分を下回り前期比減収

既存顧客の離脱による減少、顧客獲得活動の遅れ

3 先行費用

営業活動の強化に伴うコストの増加

広告宣伝・販売促進費用など事業展開の強化に係るコスト増

2023年11月期第2四半期 連結損益計算書



単位：百万円

	2022年11月期	2023年11月期第2四半期		
	第2四半期	実績	増減額	増減率
売上高	2,244	2,179	△65	△2.9%
売上原価	1,372	1,384	11	0.9%
売上総利益	872	795	△76	△8.8%
販売管理費および 一般管理費	784	812	28	3.6%
営業利益	87	△ 17	△105	—
経常利益	99	△ 11	△110	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	41	△ 11	△53	—
1株当たり 四半期純利益（円）	9.49	△ 2.71		

※百万円未満切り捨て。縦計、横計の合計値が合わない場合がございます。

2023年11月期第2四半期 連結貸借対照表



単位：百万円

	2022年 11月期末	2023年11月期第2四半期		
		実績	増減額	増減率
現金	3,294	3,415	120	3.7%
ソフトウェア	247	221	△25	△10.4%
投資有価証券	425	428	3	0.7%
資産合計	5,490	5,453	△36	△0.7%
負債合計	2,118	2,113	△5	△0.3%
株主資本	3,368	3,334	△34	△1.0%
純資産合計	3,371	3,340	△31	△0.9%
負債・純資産合計	5,490	5,453	△36	△0.7%

※百万円未満切り捨て。縦計、横計の合計値が合わない場合がございます

単位：百万円

	2022年11月期 第2四半期	2023年11月期 第2四半期
税引き前利益	69	△11
減価償却費及び償却費	52	54
営業活動によるC F	△298	415
投資活動によるC F	△58	△108
有利子負債増減	△155	△160
財務活動によるC F	△159	△186
現金及び現金同等物の増減額	△516	120

※百万円未満切り捨て

単位：百万円

	2022年11月期 第2四半期	2023年11月期 第2四半期	前年同期比
売上高	1,590	1,488	△6.4%
営業利益	555	460	△17.2%

セグメントの概況

- 輸入青果物サプライチェーン事業の一部顧客の契約終了の影響（2022年3月業務受託終了）を受け、セグメント全体では減収。主要顧客との価格改定を含む複数年となる契約延長の獲得に注力
- 生鮮MDシステム事業は、堅調に推移。量販店グループ各社への導入を推進
- システム運用・保守コストの増加が利益を圧迫（下期にサービス価格へ反映）
- ドラッグストア向け青果売場構築支援事業は、導入・運営の効率化を図り、事業拡大の取組みを継続

単位：百万円

	2022年11月期 第2四半期	2023年11月期 第2四半期	前年同期比
売上高	654	691	+ 5.6%
営業利益	△44	△ 41	—

セグメントの概況

- りんご販売については、大雨災害等の天候不順により全国的に収穫量が減少。集荷量を確保できず低調な結果
- 国産青果物の取り扱い商材の拡大により、全体の売上高は伸長
- 有機農産物販売は、主力の輸入有機バナナで一時供給網の混乱などがあったものの、安定し売上増加に寄与。その他の商材は堅調に推移

2023年11月期 上期振り返りと通期連結業績見通し

E-supportlink, Ltd.

＜上期のポイント＞

- ① 売上減少は下げ止まり、顧客獲得に注力
- ② コスト上昇分のサービス価格への反映の遅れ

下期最大のテーマは「顧客獲得の早期化とコスト上昇分の価格反映」

事業	下期取り組み内容
輸入青果物 サプライチェーン事業	● 業務受託サービスは既存顧客の取扱い業務の拡大 ● 価格改定を含む延長契約（複数年）の獲得 ● 国産BPOの取り込みとシナジーによる効率化
生鮮MDシステム事業	● 顧客企業の再編取り込み ● 既存顧客グループ以外の新規獲得 ● オプション機能や簡易システムのリリースによる売上増
その他	● システム運用・保守コストの価格反映（6月より値上げ開始） ● 青果売場構築支援事業は、店舗展開の加速とパートナー企業との連携強化による日販の向上 ● es-Marché（エスマルシェ）は生鮮MDシステム利用顧客への導入提案による拡大

＜上期のポイント＞

- ① 全体では売上高は伸長したものの商品調達に課題
- ② 黒字化に向けたコスト管理、取引スキームの確立が不十分

商品調達の安定化、コストの見直しに注力

事業	下期取り組み内容
りんご販売	● 本年産の集荷量拡大に向けた生産者営業、新規開拓の強化 ● 加工センターの運営コストの見直しなど収益性の改善
国産青果物販売	● 新規商材の取引スキームの確立と拡大
有機農産物（子会社）	● 生産事業の強化、優良生産者との連携 ● 輸入果実を中心に優位性のある商材の販売強化

前期比増収と営業利益167百万円を計画

単位：百万円

	2022年11月期 実績	2023年11月期		前期比
		第2四半期実績	通期見通し	
売上高	4,850	2,179	5,023	+ 172 (+3.5%)
営業利益	214	△17	167	△47 (△22.0%)
経常利益	217	△11	173	△44 (△20.5%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	155	△11	120	△35 (△22.6%)

持続的な成長に向けた事業の方向性

E-supportlink, Ltd.

経営理念

全ては生産者と生活者のために

2021年～ 事業構造改革

- ・ イーサポートリンクブランドの更なる浸透と深化
- ・ 地産地消で効率的なサプライチェーンビジネスモデルを拡大加速

“地域社会と環境”の視点をビルトイン

F Y 2 0 2 3 -

中期事業方針

食生活における環境にやさしい地域社会創りをサポートします

- F Y 2 0 2 2

中長期の
経営戦略

システムと業務受託で青果物流通にかかわるすべてのプレイヤーを支援し、圧倒的な優位性を持つオペレーション会社になる

長期方針

- ・ 青果物流通に必要なサービスを新たに創造し、高いレベルで提供する。
- ・ どこよりも安く高品質なオペレーションサービスを提供する。
- ・ 誰でもどこでも簡単に利用できるサービスを提供する。
- ・ 時代の変化にリアルタイムで対応し、常に新しい技術を導入し続ける。

生産者

【生産基盤の維持】

- ・農業従事者の減少と高齢化
- ・気候変動に伴う産地変化
- ・生産コストの上昇

流通

【効率化】

- ・デジタル投資（省人化）
- ・物流効率化
- ・小売再編

生活者

【生活スタイルの多様化】

- ・購買行動の変化
（リアルとネット）
- ・多様な価値観

地域社会

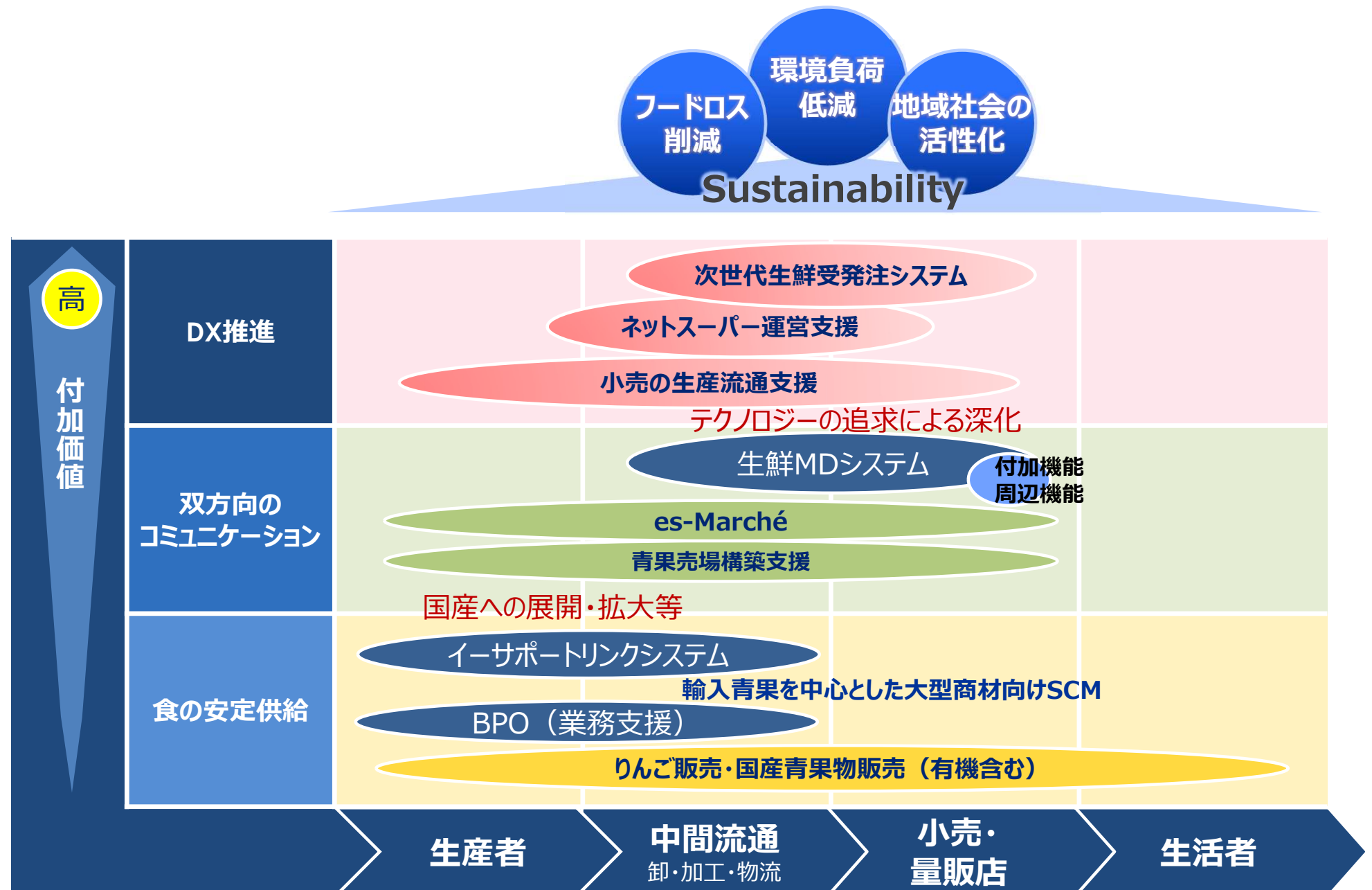
【地方創生・活性化】

- ・地方圏の人口流出
- ・買い物難民
- ・産業、雇用の維持

環境・政策

【持続可能な社会】

- ・脱炭素社会
- ・フードロスの削減
- ・有機農業の推進（みどりの戦略）



本資料における注意点

本資料に記載されている内容は、資料作成時点の入手可能な情報に基づき、当社で判断したものであります。

予想に内在する様々な不確定要因や外部環境等の変化等により、実際の業績と異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

＜ 本資料ならびに I R 関連のお問い合わせ先 ＞

イーサポートリンク株式会社 経営企画室 I R 担当

T E L : 03-5979-0784 / E mail : IR@e-supportlink.co.jp